

二九 烏山由緒書抜（那須烏山市所蔵「大鐘家文書」）

烏山城主の歴代が記されている。

沢村五郎資重 那須与一宗隆十代形部大輔資氏之次男也

始メ沢村ノ家ヲ継ギ、故ニ沢村五郎ト云テ文治三十二年迄 応永廿一年兄越後

守資之下不和ニシテ、既ニ合戦ニ及シニ、資重終ニ敗北シ、沢村之館ヲ捨テ下

境ニ退ク、先祖須藤三郎資之居城稻積ノ旧城ヲ再興シテ居館トス、是ヨリ福

原ノ家ヲ上ノ庄ノ那須家ト云フ、下境ノ館ヲ下ノ庄之那須家ト云フ、那須氏

両家ニ別ル、

那須越前守資持 資重之嫡子

上ノ庄ト和シテ、沢村ヲ改メ那須氏トナルナリ、

同伊予守資実 資持之嫡子

三百五十年マシ間、マシ 応永年中烏山ニ城ヲ築ク、移住ス、烏山城ノ元祖ナリ、此

頃筑紫山八幡宮ヲ宮原ニ移ス、古本ニ応永廿四年沢村五郎資重 烏山ノ城

ヲ築クトアルハ元那ス記ヨリ出タル説ニテ誤リ

三百四拾六年明応九庚亥年天性寺建山今福隸坊ノ後口ノ

同左衛門資房 資実之嫡子

三百九年永正十一戌年泉溪寺ヲ下境ヨリ移ス、今ノ中長屋ノ上ニ寺地アレリ、

同十三年上ノ庄共ニ兼帯シテ八万石ヲ領ス、

同老岐守政資 資房ノ嫡子

同修理大夫高資 政資ノ嫡子

二百八拾六年、天文十七年申、宝光院建、

同修理大夫資胤 政資ノ嫡子

二百六十四年、永禄三庚申年牛頭天王ヲ大桶村ヨリ烏山ニ移ス、同六年

遷スト云フハ誤ナリ

永禄四酉年慈願寺建、善西ノ開基 天和二年ノ書抜ニアレリ

享保十二未年ノ書出ニハ貞応二未年那須肥前守資持

入道信願坊ト開基アルハ疑ヒ

二百五拾九年、同八巳年延命院建、天正二マシ戌年成性院建、夷子ノ宮建ツ、

天正八辰年光福院建、同十年大楽院建、

同修理大夫資晴 資実ノ嫡子

二百四拾年、天正十三酉年十二月八日瀧村大平寺ニ於テ、千本父子共ニ殺

サル、同十七年妙光寺建、此頃正宝院ト云フ、

同十八寅年秀吉公小田原征伐ノ時、資晴御陣所ニ参向セラレサル、故ニ小田

原落城ノ後、烏山ノ城ヲ被召放、佐良土ニ退ク、明応年中資実烏山ノ城創業

アリテヨリ、資晴迄テ六代、年数八拾余年ニテ那須氏中絶ス、秀吉卿織田信

雄卿ニ烏山ノ城ヲ預ケシム、

古本ニ織田内府信雄卿ヲ烏山ノ城主ニ加シハ誤、尾張

ノ大輔ト書モ誤リ、大輔ニアラズ、内府ナリ、信雄卿此

時尾張国清須ノ城主ニシテ内大臣ナリ、故ニ尾張内府

ト称ス、

成田下総守氏長 二万石

下総守氏泰ノ嫡子ナリ、始メ左馬之介ト云、古本ニ左衛門尉ト書シハ誤ナリ、始メハ武州忍ノ城主、天正十九 卯年 二百三十三 年 秀吉公ノ命ニ仍テ烏

山ノ城ニ移ル 古本ニハ天正十八 寅年 成田下総守氏 国鳥山ニ

移ルトアルハ違ヒナリ、委鋪ハ関八州古戦録 并ニ藩幹譜ニアリ、

天正十九 卯年 金剛寿院ヲ福原ニ移ス、跡ニ一乘院建、

同年三学院建 一乘院 天正十七 年ノ開基モ疑シ 同年能泉寺建、今ノ下長家寺地ナリ、

同新十郎康高 氏長ノ嫡子

二百三拾年、文禄三 年善念寺建、同四 未 年大宝院建、

同左馬介康基 氏長ノ嫡子

二百二十五年、慶長四 亥 年薬師寺開基トノ薬師寺 堂大同二年ノ

同左馬介康基 氏長ノ次男ナリ

二百七年、元和元年大坂出陣ノ時、左馬介手勢三百六十八討取、同八年成福院建、成田氏ハ、元和八年十一月左馬介康基ノ死後、弟内記康直ト新十郎康高ノ子成長ト叔父・甥家督ヲ争ヒ、家内ニツニ別レ騒動ナシ、家名滅亡ス、

松下石見守重綱 忠房ト書 二万石 孫下嘉兵衛之綱ノ

百九拾九年、元和九 亥 年鳥山ニ移ル 或説ニ下総国小弓ヨリ、

鳥山ニ住シテ寛永四 卯 年奥州二本松ニ移ル、

古本ニハ寛永三 寅年 奥三春エ越ストアルハ誤リ、三春

エハ重綱ノ子長綱ノ代寛永五 辰年 二本松エ移リシナリ、委クハ藩幹譜ニアリ、

堀美作守親良 二万石

堀久太郎秀政ノ次男ナリ、慶長十二年真岡ニテ一万二千石賜リ、後美濃国ニ移ル 寛永三 寅年 二移ルハ誤リ、

同美作守親昌 親良嫡子

百六十年、万治二 亥 年鳥山ノ城三ノ丸ヲ築ク、寛文元 丑 年滝田村東江寺建、堀氏菩提所也、

同十二年子、堀氏信州飯田ニ移ル、此年東江寺モ飯田ニ移ス、此時東江寺ノ

山門ヲ滝ノ觀世仁王門ト成ス、外門ハ善念寺ノ裏門トナス、華鯨ハ一乘院

ニ寄附ス 善念寺ノ門ハ寛政十年ニ焼出ス、堀氏二代ニテ四十六年

鳥山ニ住ス 大筒ニ挺ニノ丸ニ残シ置ク、

板倉内膳正重矩 知行高未詳

寛永十五 戌 年正月肥前島原ニテ討死セシ内膳正重昌ノ嫡子ナリ、

寛文十二 壬 子 年参州ヨリ移ル、参州ニテハ四万石ヲ領ス、

古本ニ重義トアルハ誤リ、重義ハ重矩ノ嫡男ニシテ伯

耆守義良ト云フテ備中国庭瀬ノ板倉ノ元祖ナリ、

同石見守重道 重種トモ云フ 重矩ノ次男

後内膳ノ正ト改名ス、

古本ニ重通ト書セシハ誤、天性寺ニ奉納ノ香爐ニ重道トアリ、

百六拾一年、延宝三卯年鳥山ノ家中ヲ広ム、此年泉溪寺・天性寺・能泉寺等ヲ今ノ地ニ移ス、此時ヨリ旧地ノ形ヲ委鋪改之、追手口・神長口・滝田口三ヶ所ニ門ヲ建ツ、今ノ藩中ト成ル、又町並ヲ直シ木戸・舛方等ヲ作ル、

同八申年内膳正重道老中ヲ勤メ、同九酉年改元、天和元年トナル、此年内膳正重道役御免ニナル、信州坂元エ越ス、板倉氏二代ニシテ十ヶ年鳥山ニ住ス、赤坂町宮下某カ記シタル天王祭祀記ニ信州坂本ニ越トアルハ誤、坂本ニ非ス、坂本ナリ、古本ニ板倉内膳正重道天和元年武州岩附ニ越ストハ疑ヒナリ、岩槻城ニハ延宝申年ヨリ天和二戌年マテ三ヶ年ハ戸田山城守忠昌居城シテ今ハ大岡氏ナリ、岩槻城ニハ板倉公ノ住シタル事不見、板倉氏ハ信州坂本エ越テ、三万石ヲ領シ、重道ノ男甲斐守重寛ノ代元禄十三年福島ニ移ル、

那須遠江守資祇 資弥書ハ誤リ 二万石

増山弾正忠正利ノ舍弟ナリ、始メハ権之助ト云フ、那須美濃守資重ノ養子トナル、遠江守資祇ト改ム、天和元酉年福原ヨリ鳥山ニ移ル、但シ福原ニテハ一万三千石ヲ領ス、此年加増シテ二万石トナル、天正十八寅年ヨリ九十二年ニテ那須氏鳥山ニ還住ス、

同 与一資徳 天和元年熊田村ノ内宿・山ノ根兩組御

料ニナル、

実ハ津輕越中守信政ノ次男ナリ、那須家ノ養子トナル、貞享四卯年八月十七歳ニテ家督、然ルニ養父遠江守ノ妾腹ノ子ニ福原圖書資豊ト云フ者有、那須ノ家ヲ継ガン事ヲ無念ニ思ヒ、母諸共東都ニ出テ伯父平野丹波守ト相談シ那須ノ実子ハ某ナリト、然ルニ実子ヲ捨テ他ノ家ヨリ養子ニナシタル次男ヲ言上ス、仍テ圖書ハ丹波守ニ御預ケ、与一ハ実父越中守ニ御預ケ、鳥山城被召上、城地引渡シノ御上使トシテ土岐伊予守本陣ナリ、御目付柴田三左エ門・中根半十郎、御代官南條金左エ門、其他役人数十人、城請取ハ宇都宮ノ城主奥平美作守向田村松山重藏氏請取、十一月六日ナリ、此時那須家ノ武器ハ鳥山ノ城付ニナル、今ニ鳥山ニ有鉄砲ハ丸一文字ノ紋付タルハ、那須氏ヨリノ残品ナリ、那須氏二代ニテ七年鳥山ニ住ス、其后子元禄十四年被召出、福原ニテ千石賜、定府ニナル、

永井伊賀守尚敬 三万石

貞享四卯年鳥山ニ移ル(柯方未詳) (或説ニ和州守多)
元禄元年領分中ニ藪役・夫役等金ニテ納ムルコトニナル、

同十年熊田村ノ宿・山根兩組鳥山領ニ戻ル、此時ヨリ新ノ字ヲ加ヒ、新熊田村ト云フテ今ニ別村ナリ、

同十五年午十一月播州赤穂ニ越ス、此年鳥山無城主故、物成ハ御料方ニ納ニナル、公儀御代官比企長左エ門ヨリ免状渡リシナク、永井氏一代ニテ十六年鳥山ニ住ス、

稲垣対馬守重富 三万石

始メハ參州刈谷城ニ住シ、元祿十五年ニ上総国大田喜ニ移ル高富ト書ハ誤ナリ、

同十六未年鳥山ニ移ル、

同信濃守昭賢保富ト書ハ誤リナリ、後和泉守後撰津守

鳥山愛宕社宇ニ掛タル絵馬ニ、正徳五未年稲垣氏重相ト有ハ、此撰津守ノ名乗ナルヤ、余人ナルカ、然シカラス、始メ重相ト云フ、後ニ昭賢トナル、享保十一年志摩ノ鳥羽エ越ス伊勢ノ鳥羽ハ誤ナリ、

稲垣氏二代ニテ廿四年鳥山ニ住ス、

大久保佐渡守常春 始メ山城守

九十年、享保十一丙午年三月廿一日鳥山城ヲ拝領ス、始メハ江州三雲ニテ一万二千石、丹波ニテ三千石、都合一万五千石ナリ、享保十一年ニ鳥山城ヲ賜リ、五千石加増シテ、野州ニテ二万石ヲ領シ、此頃君年寄ヲ勤ム、同十二未年九月十三日城地一見トシテ入部ス、同月十七日日光ニ越ス、同十三年申四月有徳院殿吉宗公日光御社參之時供奉、同年五月相州厚木ニテ一万石加増ス、三万石トナル、同年九月八日卒ス、

同山城守忠胤 始メ伊豆守

享保十三申年家督、宝曆九年隱居、安永八亥年七月廿八日卒ス、

同佐渡守忠郷 忠胤ノ嫡子

宝曆九年家督、同十二年午年初入部、

同山城守忠喜 忠胤次男

明和六年兄忠郷早世ニ仍テ弟藤九郎家督、安永四未年初入部、文化二丑年深川ニ隱居ス、文化九申年八月十日卒ス、

同佐渡守忠成実ハ肥前島原之城主松平主殿頭忠恕ノ三男

文化二年家督、同三寅年初入部、

同近江守忠保 幼名市十郎

文化九年任官、室肥前唐津ノ城主水野和泉守忠光ノ娘

鳥山城創業之話

延宝年中板倉内膳正重道侯諸学士ニ命シテ鳥山八景ヲ詩作セシメテ泉溪寺ニ蔵ム、其跋ニ、鳥山城ハ在下毛国那須郡、資隆ノ裔孫資実与其子資房築此城、以世々住于此、

元祿六癸酉年二月永井伊賀守直敬侯ヨリ恩田村御靈宮ニ寄附有シ銅香爐ノ銘ノ前文ニ、今ノ鳥山ノ城ハ、元在東河下境邑、沢村五郎資重右両説何連カ実ナルヤ決シ難シ、按スルニ永井侯ハ那須記ノ説ニ仍テ沢村資重鳥山ニ城ヲ移スト書スルハ、信シカタシ、那須記ハ只タ其家名ノ悪チ遡ケ、善ヲ顕ハセシ者ナリ、類多シ、亦タ甚敷ニ至リテハ妄説充分ナリ、年代ニ相違シ、種々ニ心ヲ委ネテ以テ取調タレド、是又不明良ノ義モアリト雖モ、大略ヲ記シテ、世々ニ俱備ス、但シ善念寺境内ニ安置アラルハ、正觀音那須与一ノ守リ本尊ナリ、此由緒ハ当山ニ有リ、

【補注】

この古記録は、記載内容から考慮すると、江戸時代後期文化九年（一八一七）以降の江戸時代に書かれたものと思われる。